防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第 154 号(2020. 1. 1)
事務局 川西地区自主防災会

新　春　対　談

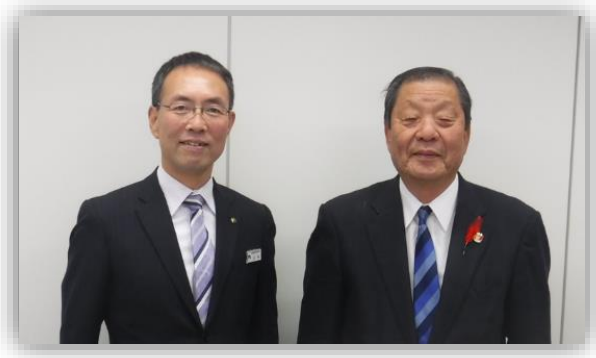
今回は、香川県危機管理総局長の土岐敦史氏とかがわ自主ぼう連絡協議会会長の岩﨑正朔氏のお二人に、新春対談をお願いしました。

司会は香川県危機管理課の住瀬さんです。

【司会】

新年あけましておめでとうございます。それではまず、昨年の活動を振り返りましょう。災害の多い１年でもありましたが、特に印象深かった出来事はありますか。

【岩﨑会長】



あけましておめでとうございます。

昨年は特に、地域の自主防災組織の自立が印象的でした。今まで、かがわ自主ぼうと一緒に訓練や研修を行っていたのですが、今回、自立してやってみたいということで、３地区くらいの組織が消防団の協力を得ながら、自分たちでやっていましたね。いいことではあるのですが、一抹の寂しさの様なものは覚えました。

また、子どもへの防災教育も兼ねて、小学校、中学校、高校の訓練の支援に行ったことも印象的です。皆さん目をきらきらさせて頑張っている様子が見られましたが、中学生、特に女子は難しい年ごろなのか、あまり活動に集中できていない様子でした。

【土岐総局長】

あけましておめでとうございます。今年が、穏やかな明るい一年となりますよう心から願っています。

おっしゃる通り、中学生は真面目なことに対して、斜めに構えてしまうような時期ですから、難しい問題ですね。

かがわ自主ぼうの皆様に、例年ご協力いただいております、福祉施設におけるプラスワン訓練については、いかがですか。

【岩﨑会長】

福祉施設でのプラスワン訓練の様子
（令和元年 11 月）

福祉施設については、この前の会報誌にも書きましたが、今年でプラスワン訓練４年目を迎える中、継続して訓練を実施している施設は独り立ちという形で、自分たちで避難をしないといけないという姿勢が見られます。特に職員さんが少なくなる夜間のことを意識されているようで、例えば、３、４部屋ごとにグループを作り、各グループごとにリーダーを決めて、お互いに助け合いながら避難することを想定しているようです。

また、施設の利用者の中には、車いすを押しながらの方が歩きやすいという方もいらっしゃるようで、その方と車いすの方が相互補完しながら避難するようです。

【土岐総局長】

役割を持ってもらうのは大事なことですね。４年やると、入所者の方も意識が高まるということで、ずいぶんと成果が上がってきているように思います。

【岩﨑会長】

本当に頼もしい限りで、今年初めての施設と比べると、大分、姿勢も違ってきています。やはり継続することが重要ですね。今後も福祉施設については、活動を広げていきたいと思っています。

福祉施設の人は、危機感が高く、自分たちでどうにかしないといけないという姿勢がありありとみられますよね。

【土岐総局長】

やはり、ここ２年間は水害が多くて、それが影響しているのでしょうね。特に近年は全国のあちこちで災害が起こっています。岩手県のグループホームの被害が記憶に新しい、平成２８年の台風１０号に始まり、昨年の西日本豪雨では、比較的近い、岡山県真備町の病院が浸水したのも、他人事でないという認識に繋がったのではないでしょうか。

【司会】

過去の災害の話がありましたが、昨年は、８月の佐賀県等での豪雨災害を皮切りに、台風１５号では千葉県が大きな被害を、台風１９号では中部、関東、東北といずれの地域でも大きな被害がありました。

こうした災害を踏まえて、「公助」・「自助」・「共助」それぞれの観点から取り組んでいることはありますか。

【土岐総局長】

「公助」の取り組みというと、一つはハード面の整備です。

ハード面の整備では、南海トラフ地震・津波対策行動計画に基づいて、関係部局と連携の上、海岸、河川、砂防、それからため池と着実に進めているところです。

特に台風１９号では、河川の被害が大きかったということですが、今、県管理の河川については被害想定の見直しを行っており、高松近辺の地域では既に完了しています。

「自助」・「共助」の取り組みとしては、台風１５号や台風１９号の課題として、やはり「避難」をどうするかという問題があります。これについては、啓発をしていくしかないと思っており、県としては、昨年は「防災情報システムの構築」をテーマとして取り組んでまいりました。今のシステムをもう少しわかりやすくリニューアルするとともに、防災アプリを開発して皆さんのお手元に直接、避難情報をお届けするものです。

その他、今年７月に県広報誌に挟み込みのリーフレットを作成し全戸配布を行ったほか、以前、作成した防災教育の副読本を見直して、県内の小学校に配布を行い、学校や家庭で活用していただきました。

県民の皆さんのお手元にどうやって情報を届けていくか、どうすれば逃げてくれ

るのかということが大事だと思っております。

【司会】

会長は、どのような課題があると思いますか。

【岩﨑会長】

一つは車での避難の危険性です。車で避難した結果、亡くなるということも多いですよね。新聞でも「大雨の死者、半数は車中」といったような記載が見られます。このことも踏まえて、まずは、学校まで行けなくても、逃げられるような近場での一時避難場所を決めておく必要があると思います。

【土岐総局長】

車は便利だし、濡れませんからね。車で避難される方は、多少、水が浸かっていても大丈夫だと思って車を使っているのだと思いますが、実は30㎝くらい浸かっていたら危険だという事を皆さん意外と知らないですよね。確かに、近くに一時避難場所を設けるというのは重要だと思います。

【岩﨑会長】

もう一つは要配慮者支援の観点からになりますが、地域や団体という単位で要配慮者の対応を考えるというのはよくありますが、それだけではだめだと思います。やはり、要配慮者一人ひとりの個別の事情を把握して、対策を考える必要があると思います。そこは、自主防災組織が中心となって対応を見直していく必要があると考えております。

【土岐総局長】

避難行動支援者の個別計画というのは、作っている地域もありますが、まだ普及できていない地域もあるのが実情です。支援に際して、他所の家に入るということへの抵抗感や名簿の共有をどこまでするのかという課題もあります。

しかし、何かあったときは助け合いがないと、独居の方やお年寄りが二人という家庭は中々逃げられないですから、少なくとも「昼は誰が助けに行くのか、夜は誰が助けに行くのか」というような想定は必要かと思います。

【岩﨑会長】

去年、支援に行った真備町でも、3人の方が亡くなった地域がありました。亡くなった方の隣に住んでいた方に話を聞くと、災害後、頭が真っ白になって、その方が独居で暮らしているということを忘れてしまっていたとのことでした。

やはり、個別にきちんと、誰が支援して、どの様に支援するかということを訓練も踏まえて準備しておくことが必要だと思います。

西日本豪雨の際に、真備町で災害復旧活動を行う様子（平成30年7月）

【土岐総局長】

地域によっては、お年寄りばかりの地域もあると思いますが、せめて気に掛けるくらいのことは必要ですね。災害時に一緒に逃げるということもできますし。

そこは県としても広報をしていく必要があると思っています。

【司会】

台風15号では、停電被害も話題になりました。かがわ自主ぼうでは、発電機等の準備もされていることと存じますが、地域の自主防災組織で備えておくべきことはありますか。

【岩﨑会長】

今、オール電化が進んでいますので、電気が止まれば、食料の調理に困ることになります。発電機に加えて、簡易型のガスコンロなどを各自治会単位で準備しておくことが大事だと思います。

【土岐総局長】

県では、停電対策として、四国電力と連携した訓練を1月に予定しています。訓練の実施等を通じて、なるべく早い復旧ができるようにしていきたいと思います。そういえば、会長は以前、NTTの方で勤務されていたということでしたね。

【岩﨑会長】

室戸で勤務していたことがあり、その時に台風で電柱が倒れた経験があります。

先日、四国電力の営業所長とお話する機会があったのですが、当時の教訓を踏まえて、電柱の強度や工法を変えているので、四国では千葉県のような被害は出ないと聞いております。

【土岐総局長】

高知や徳島の電柱の強度は強いようですね。香川県においても風速 40m程度では倒れないというのは聞いております。

【司会】

最近は、インバウンドという言葉もよく話題に上がりますが、企業実習生の方も含めた、訪日外国人の方が香川県にも多くいらっしゃいます。自主防災組織の中でも外国人の方はいらっしゃるのでしょうか。

【岩﨑会長】

最近、私のところにカナダ人の方がいらっしゃって、自主防災活動やボランティア等に積極的に参画したいという話をいただいています。この方は、日本人の奥さんがいらっしゃって通訳をしてもらっています。非常に明るい方で、チームにも活気が出てきています。

こういった外国人の方は、企業実習生など、地域でも増えてきておりベトナムの方等も多くなってきていますね。

【土岐総局長】

ベトナムや中国の方は多いですね。その他、いろんな国の方もいらっしゃいます。

先程の要配慮者の話にも共通しますが、災害時には外国人の方も同じように助け合って逃げる必要がありますね。特に外国人の方については、普段から連絡先を把握しておくことは重要だと思います。

【岩﨑会長】

もう一つ、お伝えしたいことがあります。地域の防災活動への参加を通じて、引きこもりの状態が改善したという話です。春先にお会いした時には、顔色も悪く家の中に閉じこもっていた方がいらっしゃるのですが、少しずつ地域での活動に参加してもらう中で、本人も少しずつ自信がついてきて、訓練の時も声が出るようになりました。また、姿勢や顔色も改善されてきております。

【土岐総局長】

環境への慣れの部分もあるので、地域への活動を通じて、少しずつでも外に出てきてもらうことが重要なのだと思います。ずっと家にいた方が、外に出る一歩目はなかなか難しいと思いますが、そこは自主防災組織で声掛けしてくれたことがよかったのではと思います。

【岩﨑会長】

今回の事例をモデルケースとして、その他の地域で同じように悩んでいる人も地域で助け合い、改善させてあげればと思っています。

【司会】

最後に、新年の抱負をお願いいたします。

【岩﨑会長】

福祉施設や災害弱者への支援について力を入れていきたいと思います。

特にプラスワン訓練についても、新しい施設の掘り起こしをしたいと考えています。

【土岐総局長】

施設の人も問題意識はあると思うので、声掛けしてあげれば、喜んでくれると思います。

一つでも多くの施設がやりたいと考えてくれれば、有難い限りです。

今後も、ぜひ、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様と協力して、取り組んでいきたいと思います。

【司会】

まだまだ談論風発といったところですが、このあたりで、新春対談を終わらせていただきたいと思います。本日は、お忙しい中、誠にありがとうございました。

本年もよろしくお願いいたします！

事務局だより

令和２年　１月

今月の事務局だよりは、かがわ自主ぼうの近況をお知らせします。

新年明けましておめでとうございます！

1 年の計は元旦にありということわざがありますが、皆様はいかがでしたか。私は 1 年間フルタイムで動くための健康であってほしいと願い、地域防災力向上のため、かがわ自主ぼうとして何を行うべきか考えてみました。

１．5～10 年前まで活動、そして現在休眠状態の各地の自主防災会を訪問、再開にむけたヒアリングを実施すると共に活性化のフォローアップを企画する

２．各市町エリアごとに地域防災活動の人的資源の調査とデータベース化を行う

３．災害弱者とされる福祉施設利用者に対する研修・訓練を県内平均的に昨年を上回る施設数を実施する。プラスワン訓練も期間拡大して、10 月中旬から 12 月上旬まで実施する

４．研修項目も見直しを行ない、避難所設営・運営訓練を具体的に必要な資機材を投入して、実践形式で実施する

５．1 年間自主防災関係者の安全・安心無事故で乗り切りたい

編集後記

１月の防災・減災の輪は、香川県危機管理総局長の土岐敦史氏とかがわ自主ぼう連絡協議会会長の岩﨑正朔氏の新春対談を掲載させていただきました。ありがとうございました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。